



たいふう め  
**台風の目ってなぜできるの**

たいふう おお くうき  
**台風は大きな空気のうず**

なつ ばつ にかいて、 にほん おお たいふう ねったい うみ たいふう  
夏から秋にかけて、日本に多くの台風がやってきます。熱帯の海でうまれた台風は、や  
がて小さなもので直径が200キロメートル、大きなもので1000キロメートル以上も  
ある空気のうずまきに発達します。

にほん たいふう とけい はんたいまわ ひび せきどう  
日本にくる台風のうずは、時計のほりとは反対回りの「左まき」です。赤道をはさんで  
みなみはんきゆう はんたいまわ  
南半球では反対回りになります。

たいふう め かぜ よわ くも すく  
**台風目は風も弱く、雲も少ない**

たいふう そとがわ ちゅうしん む くうき くうき じょう き  
台風は、外側から中心に向かってふきこんでいく空気のうずで、この空気は上しょう気  
流となり、背の高い積乱雲を多くつくります。

たいふう ちゅうしん くうき ちゅうしん ちか まわ  
台風を中心にあふきこんだ空気は、中心の近くまでくるとひじょうにはげしく回るので、  
えんしんりょく いじょう ちゅうしん ちか  
遠心力がはたらき、それ以上、中心に近づけなくなります。

ちゅうしんふきん かぜ くも すく まうえ あおぞら み たいふう め おお  
この中心付近では風や雲も少なく、真上には青空も見えます。これが台風目で、大き  
さは、およそ直径20～60キロメートルです。（監修 村山貢司）

